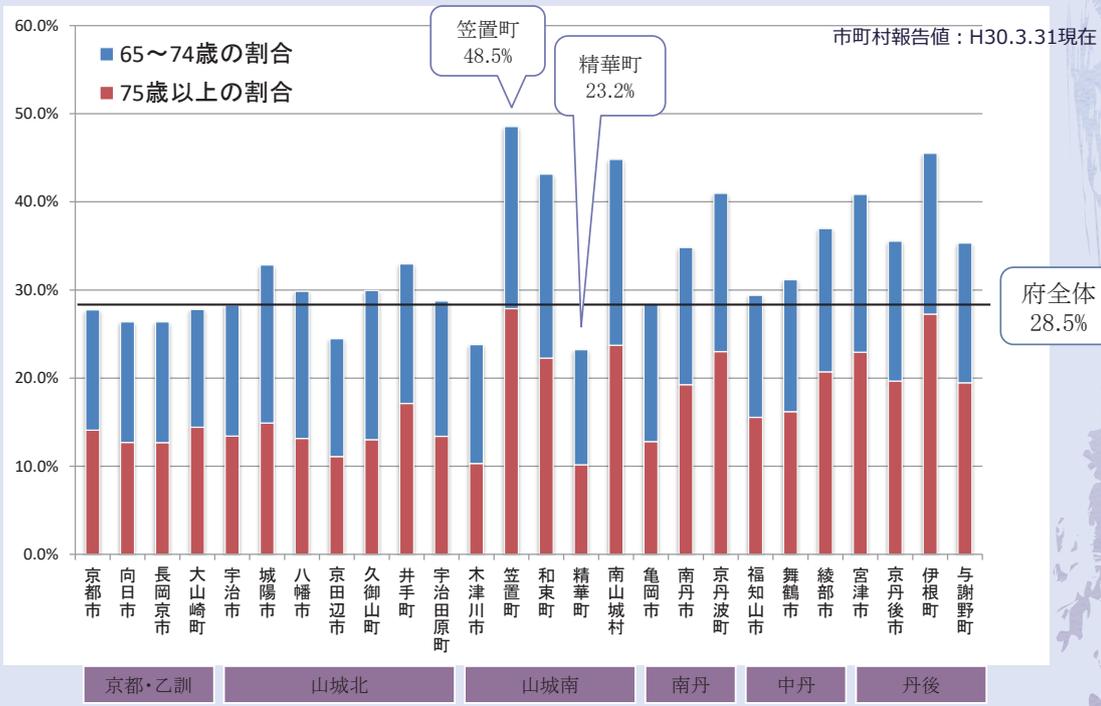


介護保険の状況

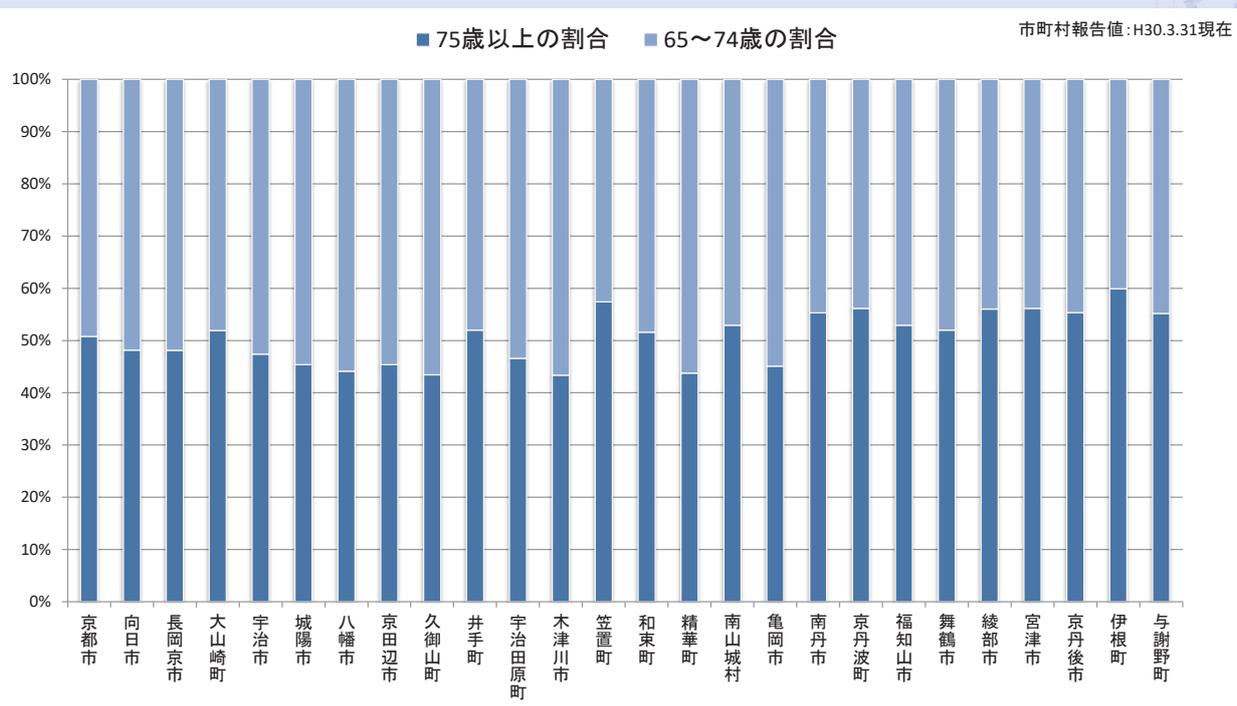
高齢化率

- 京都府の高齢化率(H30.3末):28.5%(高齢者 73万人、うち後期高齢者 36万人)
- 丹後、中丹、南丹圏域及び山城南圏域東部で高齢化が進んでいる



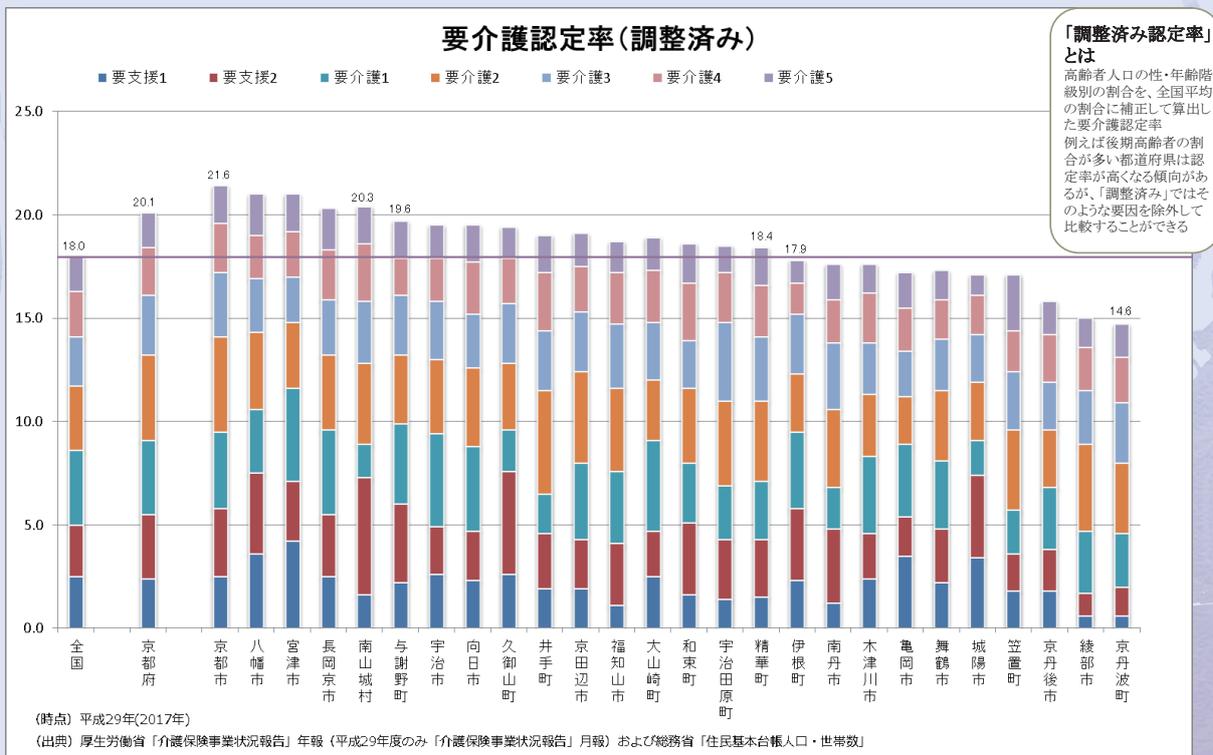
前期・後期高齢者割合

- 前期高齢者の割合が多い市町村は、今後、急激に後期高齢者が増加し、要介護認定者数も増加することが見込まれる



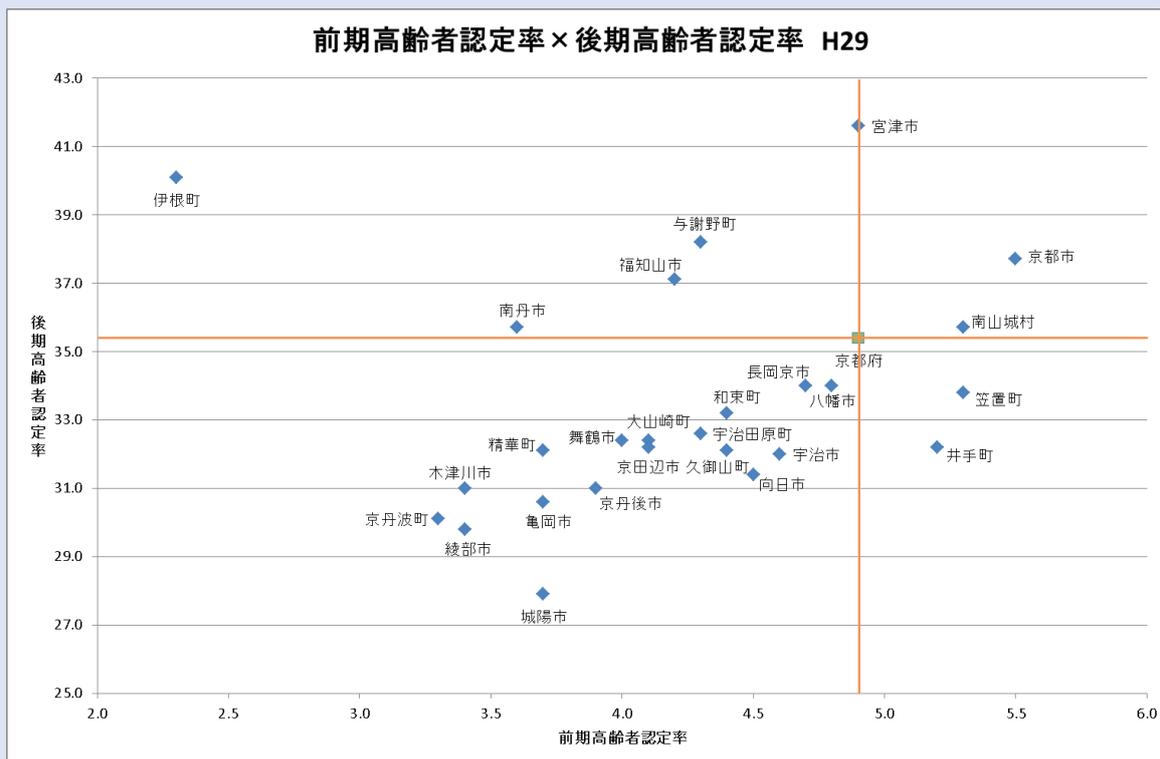
要介護認定率(調整済み)

- 京都府の認定率(調整済み)は全国で3番目に高く、16市町村が全国平均を上回っている
- 認定率が著しく高い場合は、認定プロセスやサービス受給状況等の検証が必要



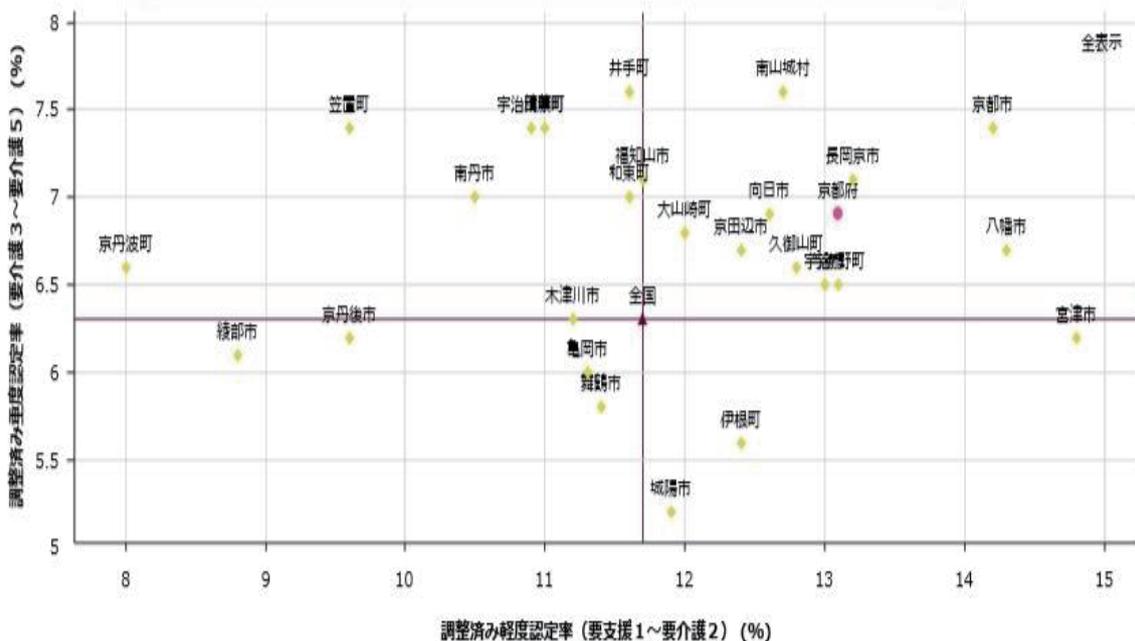
前期高齢者認定率 × 後期高齢者認定率

前期認定率と後期認定率は概ね連動しているが、一部保険者は例外



軽度認定率×重度認定率(調整済み)

軽度認定率が高い市町村は、認定プロセスや予防事業の効果、受給状況等を検証

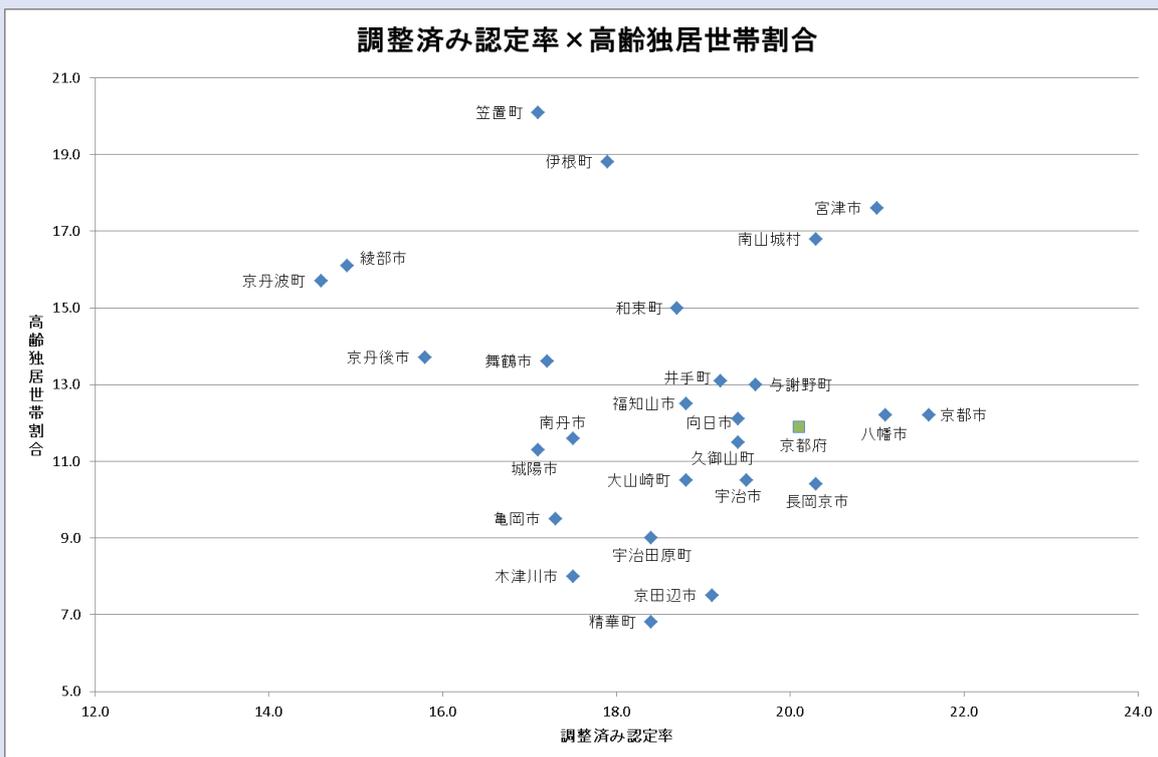


(時点) 平成29年(2017年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報(平成29年度のみ「介護保険事業状況報告」月報)および総務省「住民基本台帳人口・世帯数」

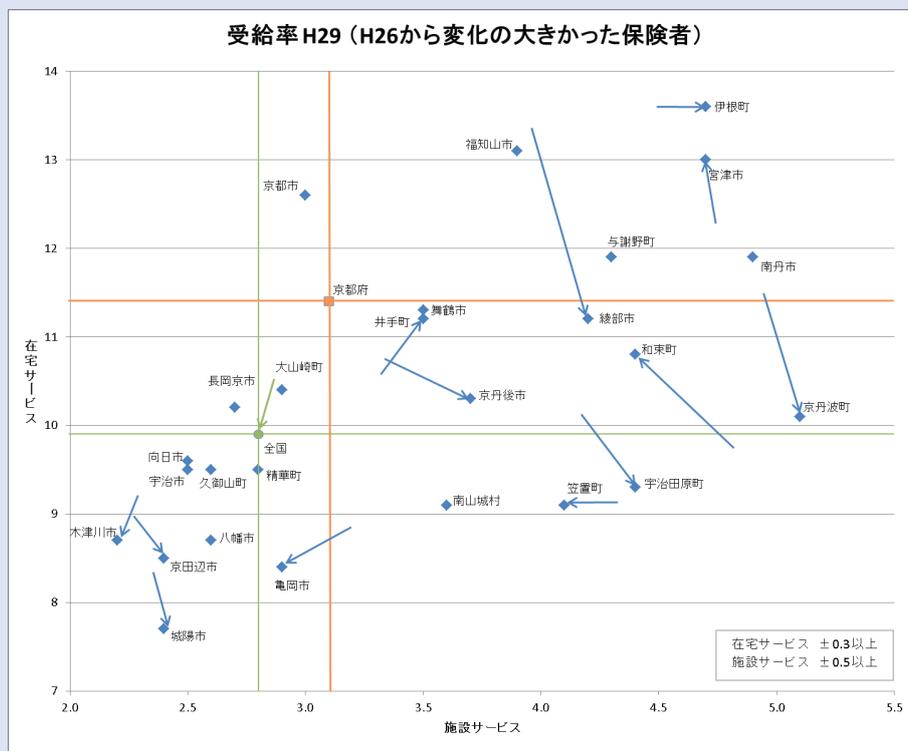
調整済み認定率×高齢独居世帯割合

高齢独居世帯割合だけでは認定率の高さは説明できない



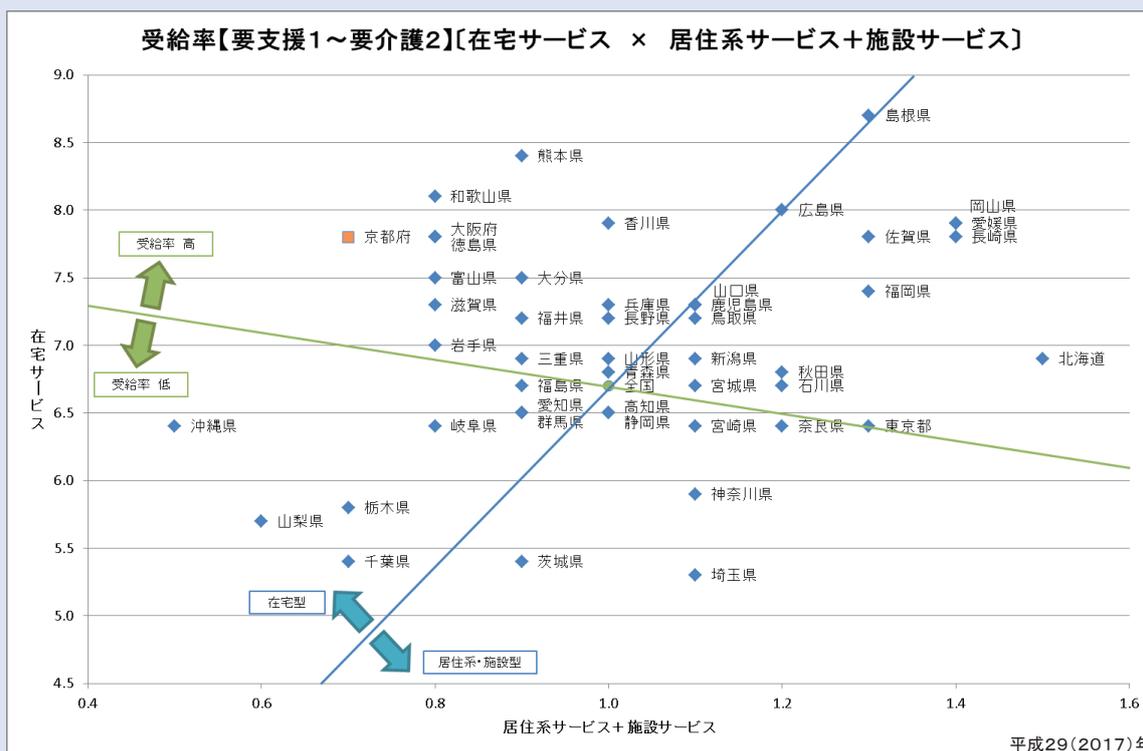
受給率 H26→29

在宅サービスが大きく減少している保険者は総合事業の影響と考えられるが、逆に増加している保険者は注意が必要



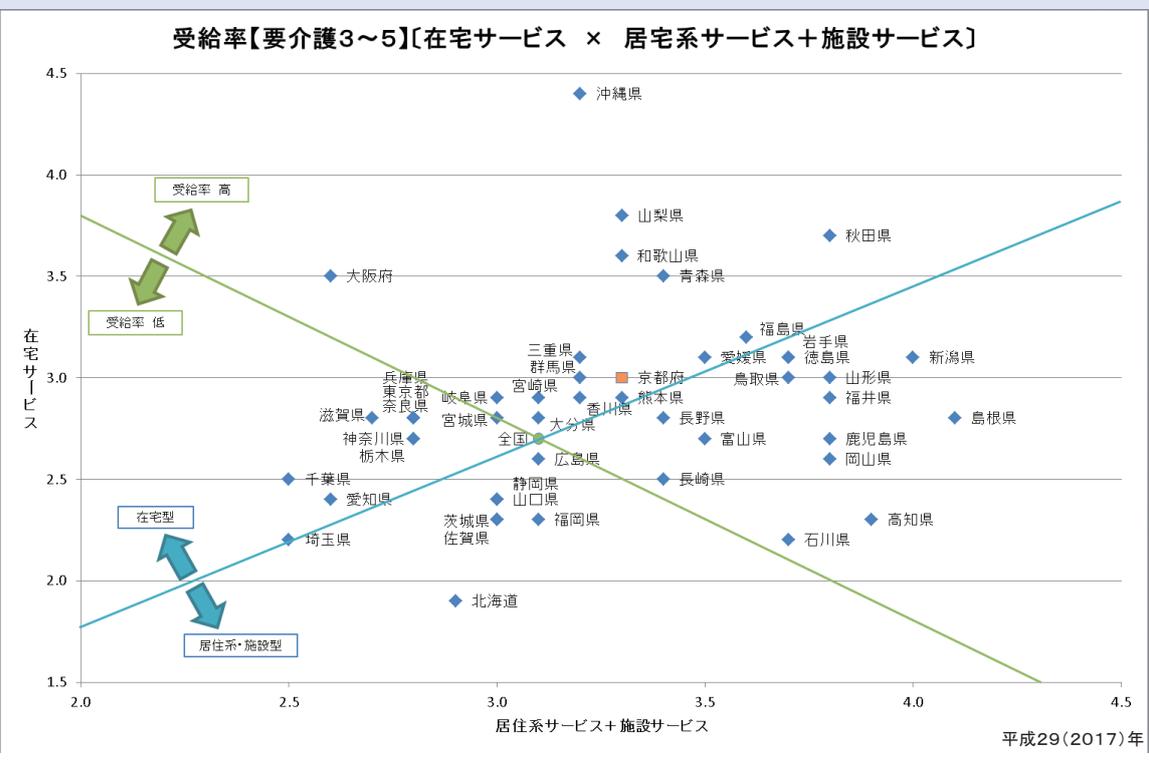
受給率【要支援1～要介護2】〈都道府県〉

軽度者: 京都府はかなり在宅型、受給率が高い



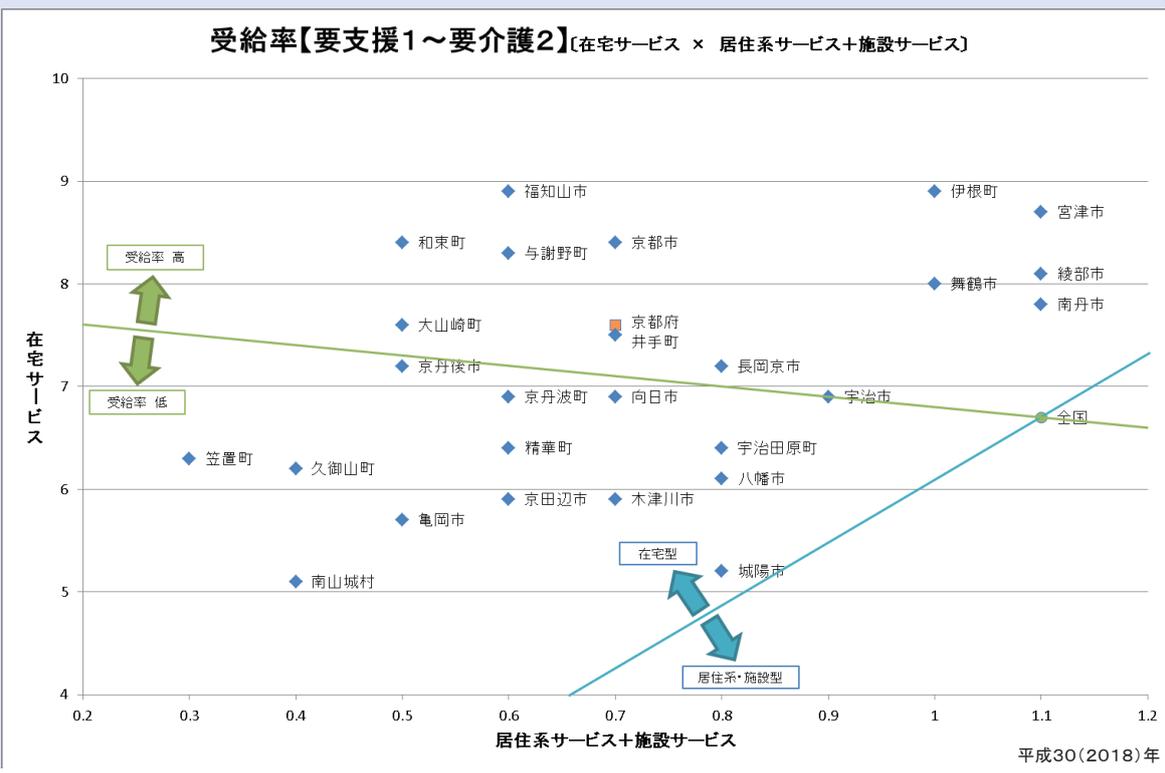
受給率【要介護3～要介護5】〈都道府県〉

重度者：京都府は平均型、受給率は高い



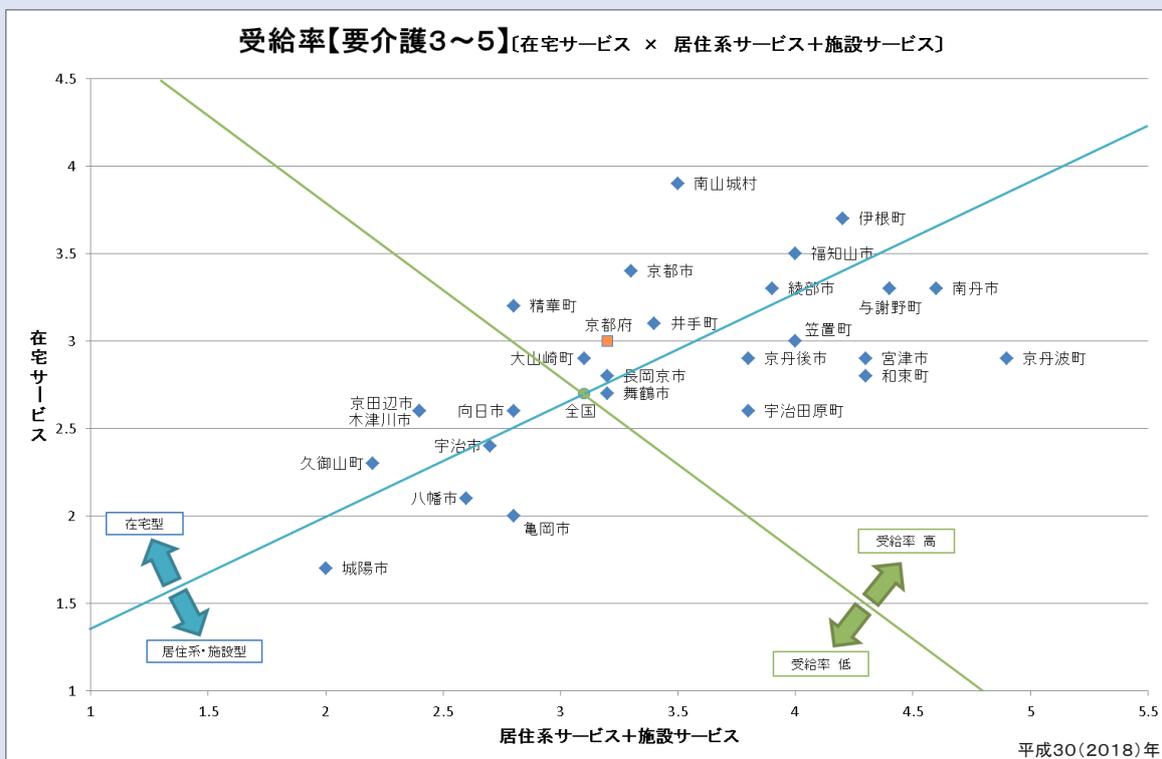
受給率【要支援1～要介護2】〈市町村〉

軽度者：概ね在宅型、受給率はまちまち



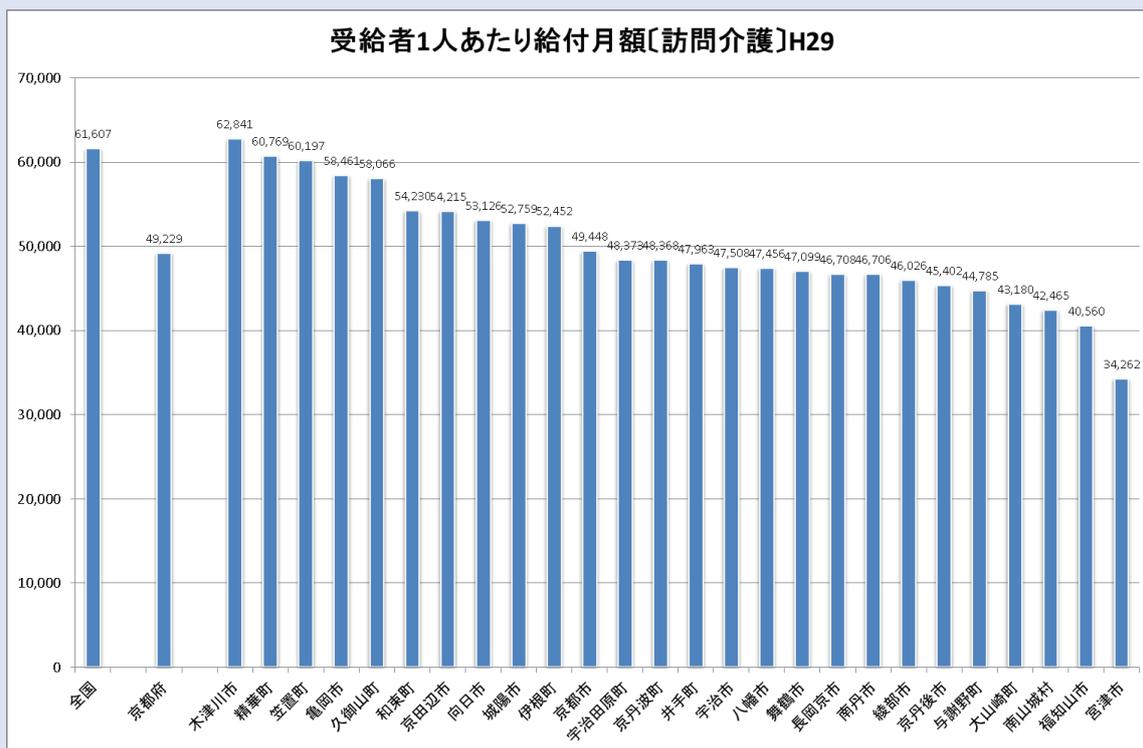
受給率【要介護3～5】〈市町村〉

重度者:タイプ、受給率ともまちまち



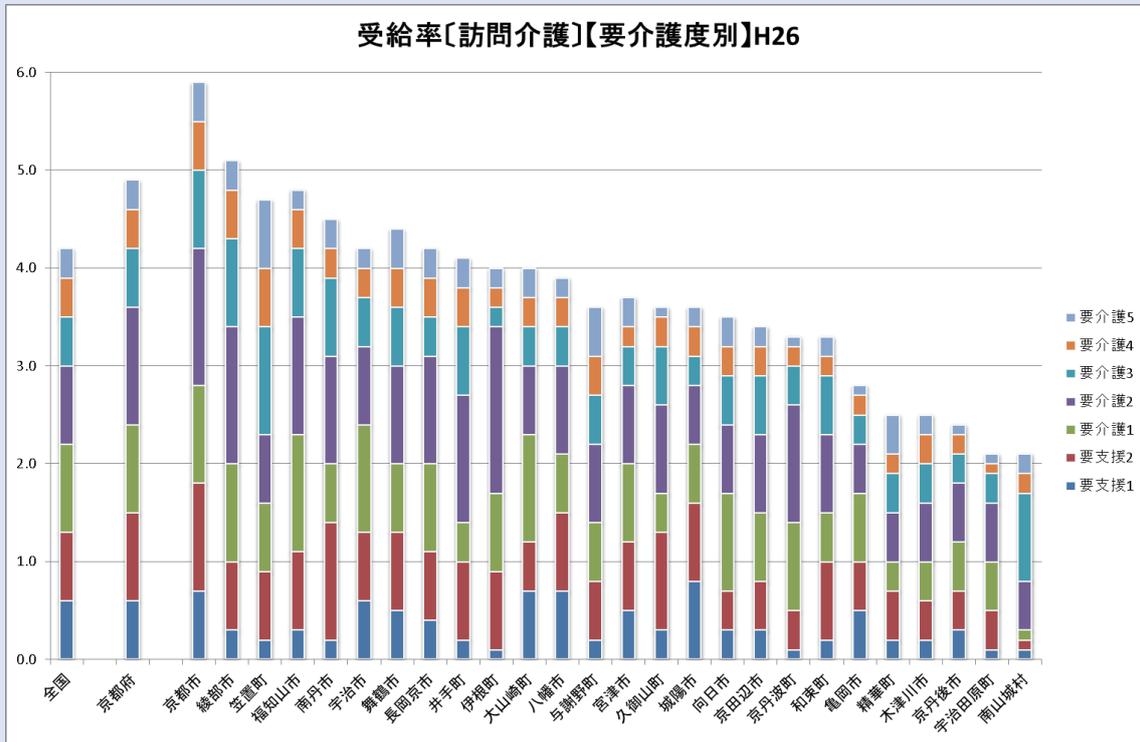
〔訪問介護〕受給者1人あたり給付月額 H29

京都府平均は全国よりも低い



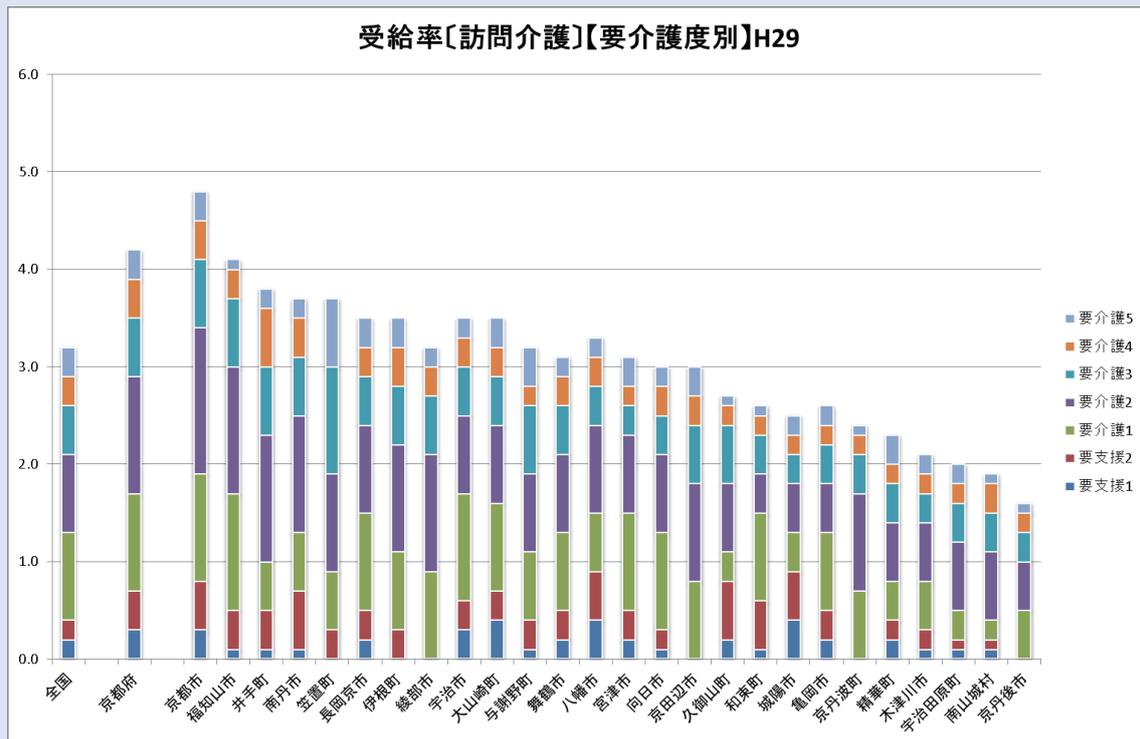
〔訪問介護〕受給率 H26

京都府平均は全国よりも高い



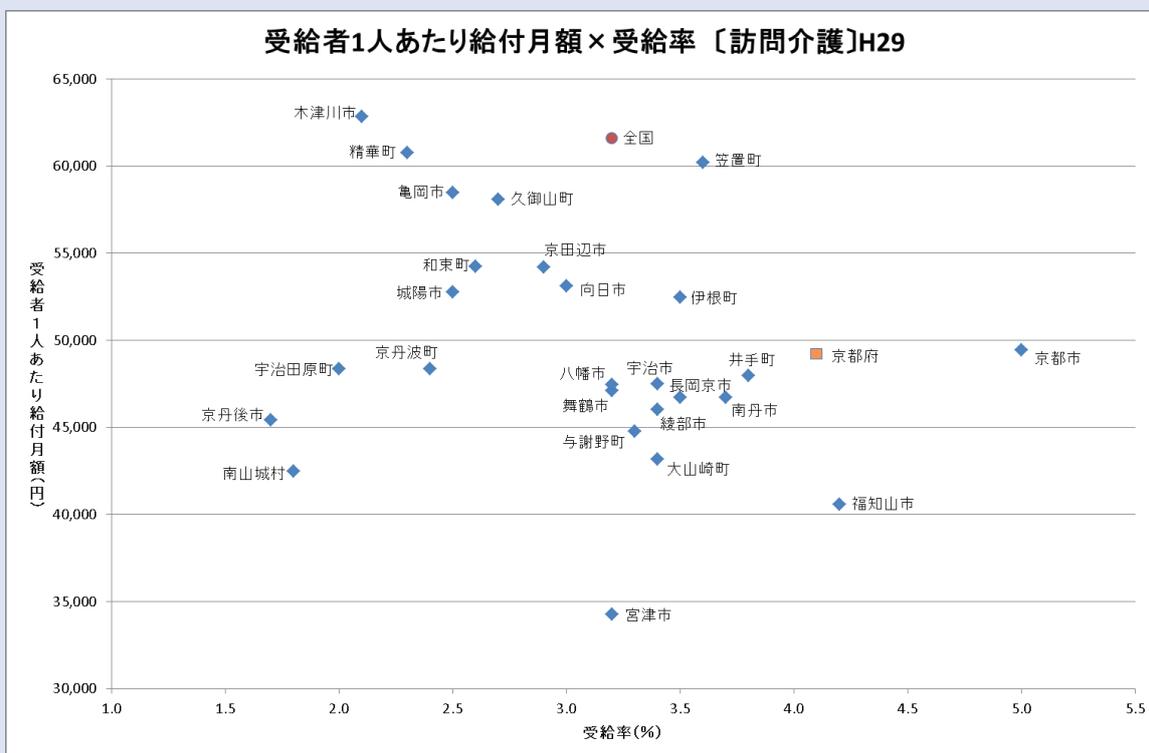
〔訪問介護〕受給率 H29

総合事業により全体的に軽度者が減少



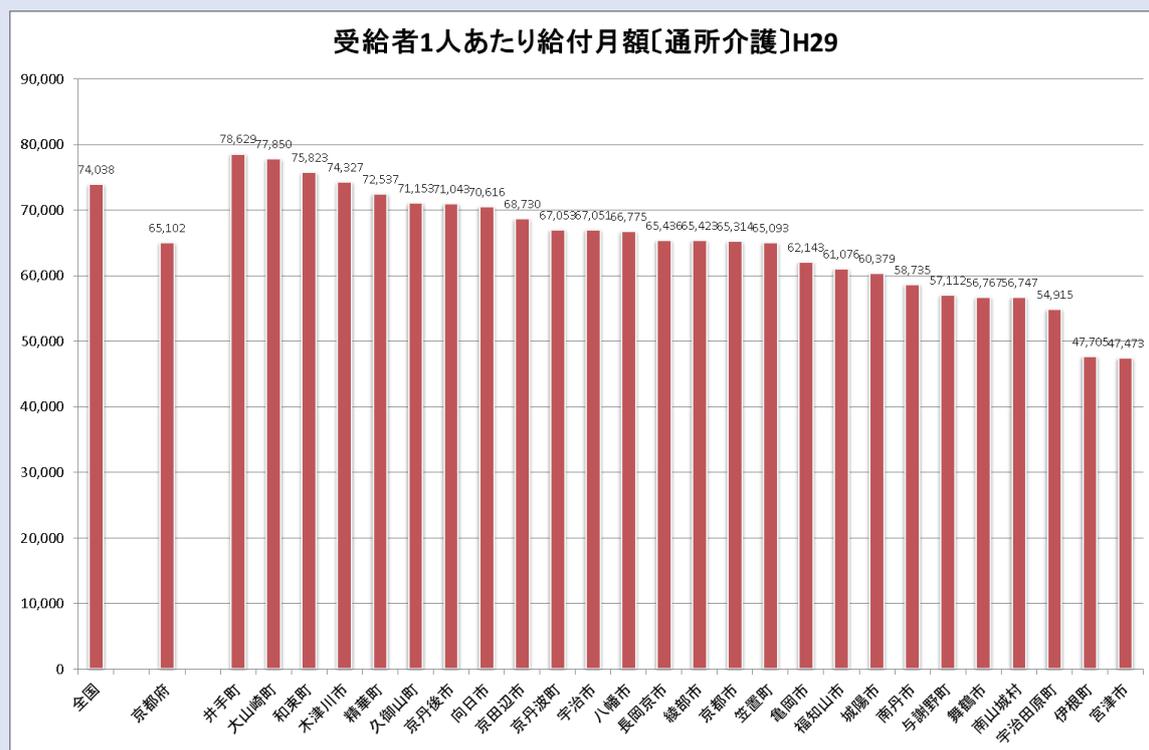
〔訪問介護〕受給者1人あたり給付月額×受給率 H29

縦横いずれも高い市町村は給付総額が大
小規模市町村は訪問介護が他のサービスを代替している可能性あり



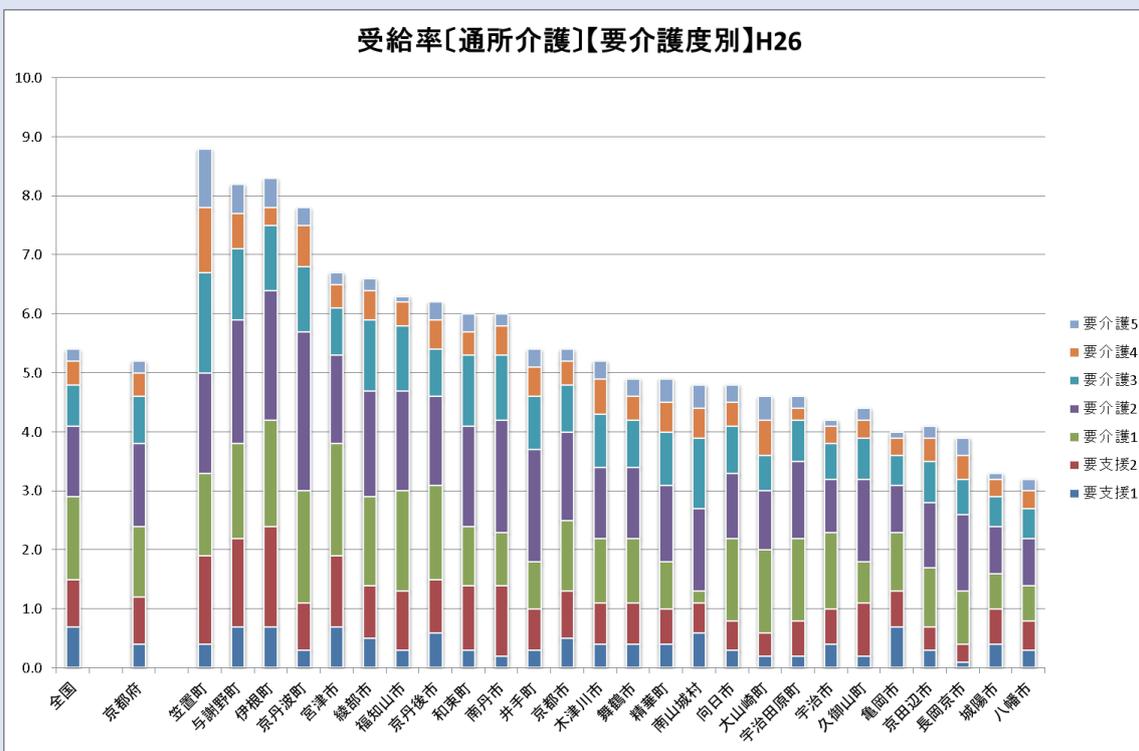
〔通所介護〕受給者1人あたり給付月額 H29

京都府平均は全国よりも低い



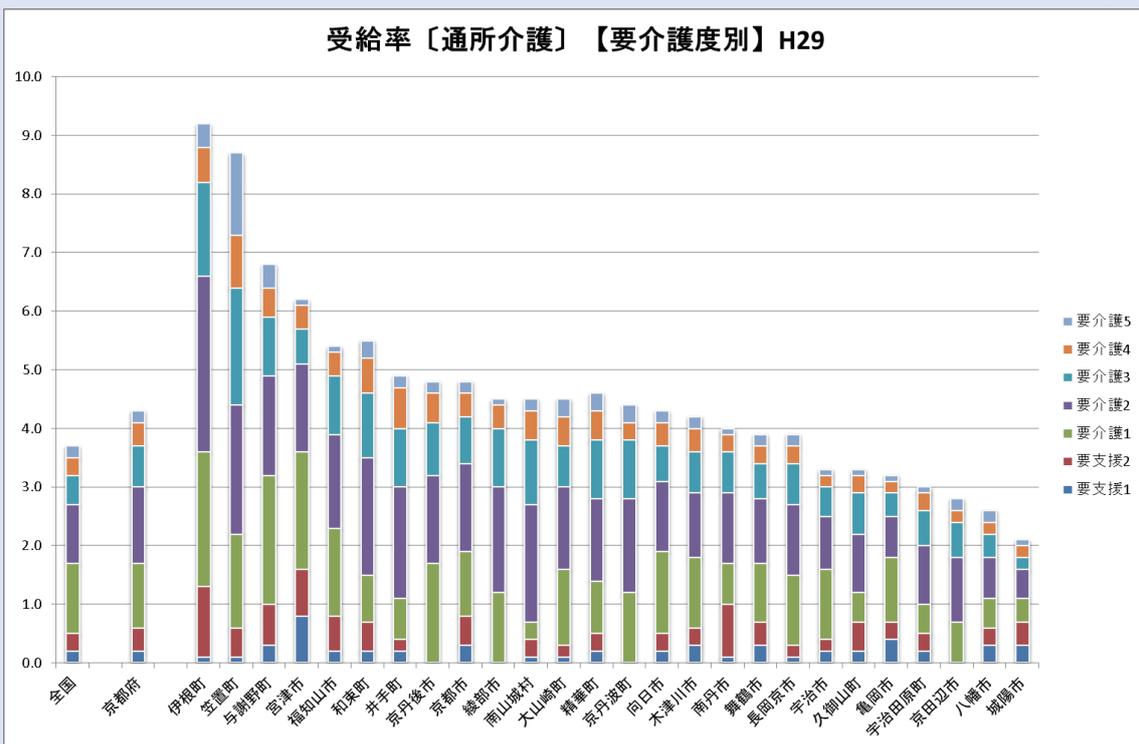
〔通所介護〕受給率 H26

京都府平均は全国平均並



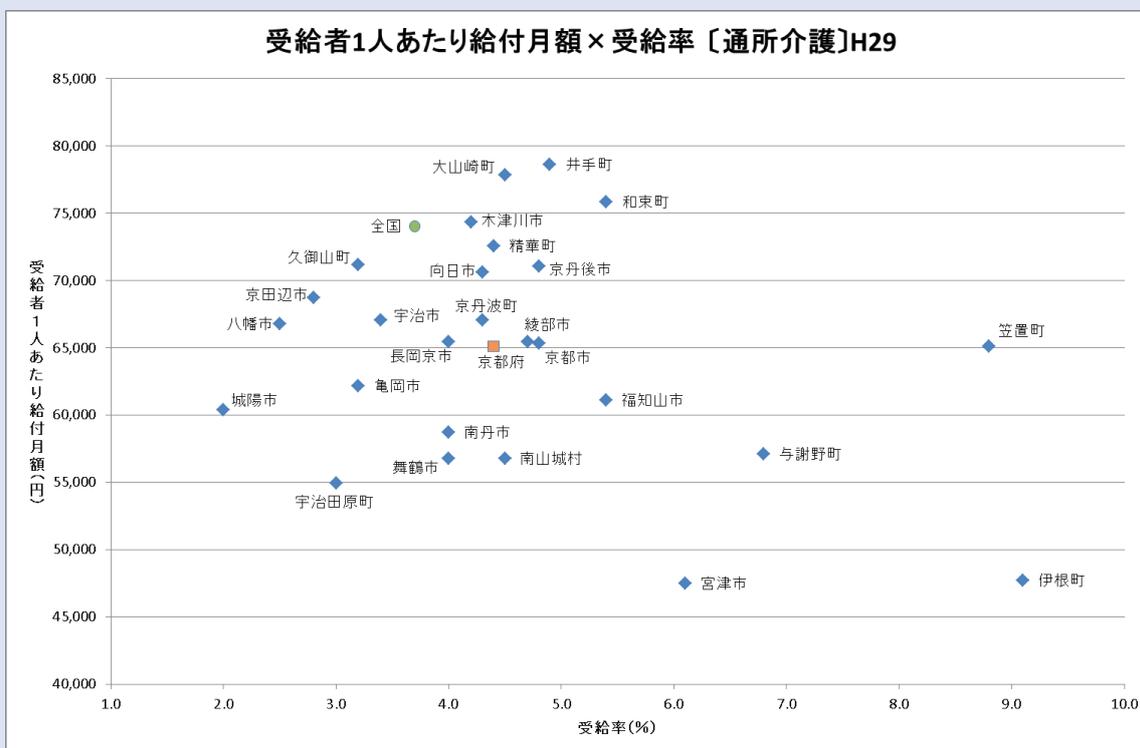
〔通所介護〕受給率 H29

総合事業により全体的に減少しているが増加している一部市町村は要注意



〔通所介護〕受給者1人あたり給付月額×受給率 H29

縦横いずれも高い市町村は給付総額が大
小規模市町村は通所介護が他のサービスを代替している可能性あり



〔福祉用具貸与〕受給者1人あたり給付月額×受給率 H30

福祉用具貸与の給付額が全国よりも大きい傾向
著しく大きい場合は給付適正化の取組を検討

